

科目名（担当教員）	ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ（ 伏見 康子 ）
テーマ	会計の役割と活用
履修条件	簿記会計科目を積極的に学ぶ意欲があること。 初級簿記を履修中（3級受験予定）、または、日商簿記3級以上を取得していること。 ゼミには欠席せず、ゼミ活動に積極的に参加できる人。
テキスト・参考文献	テキストは、ゼミ生の希望を確認したうえで、会計学の入門書を指定する。 参考文献：桜井久勝『財務会計講義』、武田隆二『会計学一般教程』など

◇ゼミ研究内容

会計は、組織の経済活動を資金（お金）の面からとらえて、企業の業績や財産の状況を明らかにするものである。どのような組織でも、会計記録が必要であり、その担当者（経理、会計係など）が存在する。

ゼミでは、なぜ会計が必要なのか、その必要性和役割について考える。また、「正しい会計情報」をどのように作成するのか、単に簿記の処理だけでなく、その背後にある会計理論を学ぶ。さらに、会計情報からどのような情報が読み取れるのか、実際の企業の財務諸表などを分析しながらさまざまな視点で考えていく。

◇ゼミ運営方法（ゼミ修了時に求める学生の理解・達成度）

ゼミでは、まずテキストを輪読して会計学に関する基礎知識を習得する。その知識をもとに、ゼミ生が自主的にテーマを選び、卒業論文作成に向けて研究を行う。

毎回、学生がテキストの担当部分のレジュメを作成し発表する。その後、全体で議論や問題演習を行い、内容を深く理解する。発表担当以外のゼミ生も、必ず事前にテキストを読んでおくなどの予習をすること。

達成目標は、①会計の役割と会計学の基本的な考え方を理解する、②会計情報から企業の実態をどのように読み取るか、会計情報の読み方を身につける、③主体的に問題意識をもち、自ら調べ、考え、まとめて、報告する能力を養うことを目指す。

◇ゼミ運営計画

	運営内容・ゼミナール特別活動	参考文献・課題など
ゼミナールⅠ (1回生後期)	財務諸表の作成に関する基礎知識の獲得（基礎理論を学ぶ） テキストに基づいて、各担当者がレジュメを作成して発表し、全員が理解できるように議論を行う。 特別活動：企業（工場）見学、簿記検定対策勉強会	テキストを精読する 関連する簿記の仕訳を理解する 簿記検定に向けて、ゼミ生同士で協力して学び合う。
ゼミナールⅡ (2回生前期)	卒業論文のテーマを決める 各自のテーマを設定し、それらテーマに関する発表と議論を行う。 企業の財務諸表を用いた財務分析の基礎を学ぶ。 特別活動：卒業論文や企業に関する情報の収集	さまざまな会計の文献を読む 実際の企業の財務諸表を分析する
ゼミナールⅢ (2回生後期)	卒業論文の作成 各テーマについて発表と議論を重ねて、卒業論文を完成させる。 学生同士で創意工夫を凝らしながら、各論文を仕上げていく。 特別活動：卒業論文の作成指導	卒業論文に向けて準備を行う

◇その他コメント（自己紹介とゼミ生への要望など）

ゼミは学生が主体的に参加し、運営することが重要である。ゼミには、大学生（大人）としての意識と責任をもって、自主的に積極的に参加すること。

学生それぞれの視点や、意見などを出し合い、それを受け止めて、視野を広げることも大切である。社会に出たら組織（人の集まり）の中で仕事をする。さまざまな人と協力して活動する力を身につけること。仲間を大切に、自分の強みを活かして、全員で力を合わせてゼミを作るよう心がけよう。ゼミを作るのは学生自身！書籍は多くの知識が詰まった財産である。書籍などへの投資（＝自分への投資）を惜しまないでほしい。

会計関連の科目はすべて履修すること。

ゼミ生全員が日商簿記3級以上を取得することを目標とする。検定試験対策はサブゼミ（特別活動）で行う。

<自己紹介>

担当科目：初級簿記、中級簿記、会計学、財務会計論、など。

沖縄出身。中学から大学時代まで沖縄でソフトテニスに明け暮れていた。先月、子どもと初めてテニスコートに行き、約9年ぶりにテニスをした。

商業高校で「簿記」に出会い、簿記のパズルのようなおもしろさに惹かれて今に至っている。

現在、2児の母として、育児に奮闘中。日々「母」偉大さを実感しながら、母親として修行中。